

第1章 計画策定の背景

1 地球温暖化とは

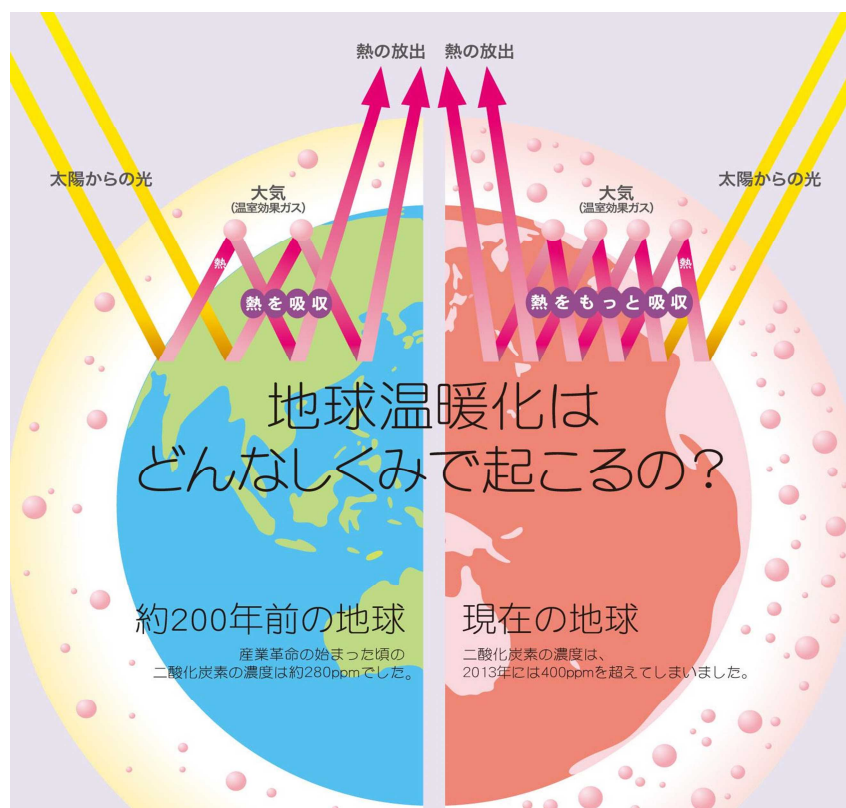
地球温暖化とは、人の活動が活発になるにつれて、大気中に含まれる二酸化炭素（CO₂）などの「温室効果ガス」が大気中に増加することにより、地球の大気や海水の温度が上昇します。このような地球全体の気温が長期的に上昇する現象のことです。

地球は太陽からのエネルギーで暖められ、暖められた地表面から熱が放出されます。その熱を温室効果ガスが吸収することで、大気が暖められます。

現在の地球の平均気温は14℃前後ですが、もし、温室効果ガスが存在しなければ地表面から放射された熱は地球の大気を素通りしてしまい、その場合の平均気温はマイナス19℃程度になると言われています。このように、温室効果ガスは地球上の生物が生きるための重要な役割を果たしています。

しかし、産業革命以降、人間活動による石油や石炭などの化石燃料の大量消費や森林の減少などにより、大気中への温室効果ガス、特に二酸化炭素の排出が急激に増加しました。

温室効果ガスが増えると、地表面から宇宙へ放出される熱が大気中にとどまりやすくなるため、地球全体の気温が上昇します。これを「地球温暖化」と呼んでいます。



出典：全国地球温暖化防止活動推進センター (<http://www.jccca.org>)

<図1-1 地球温暖化のメカニズム>

2 地球温暖化の影響

気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第 5 次評価報告書によりますと、2081 年から 2100 年の世界の平均気温は、1986 年から 2005 年の平均よりも最大で 4.8℃ 上昇し、地球温暖化の影響のリスクは、気温が上昇するにつれて高くなると予測されています。

既に、海面水位の上昇、氷河の融解、生態系の変化など、様々な影響が起こっており、病気の媒体となる生物の生息域の拡大、異常気象の発生など、私たち人間の生命や財産にも大きな被害を与えます。



出典：環境省「地球温暖化パネル」

<図 1-2 地球温暖化による将来の主要な影響>

3 国際的な動きと日本の対応

国際的な動きとしては、2015年に気候変動に関する国際連合枠組条約国会議（COP21）において、新たな法的枠組みである「パリ協定」が採択されました。これにより、世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2.0℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力をする」といった長期目標が掲げられ、全ての国々が地球温暖化対策に取り組んでいく枠組みが構築されました。

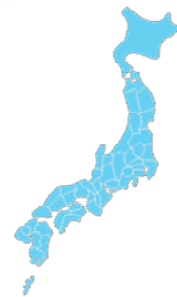
国内では、パリ協定の採択を受け、2016年には地球温暖化対策計画（平成28年5月13日閣議決定）（以下「地球温暖化対策計画」という。）が策定されました。これは、我が国の地球温暖化対策を推進する上での礎となる計画です。地球温暖化対策計画では、温室効果ガス排出削減の目標として2030年度に2013年度比で26.0%削減する中期目標と、2050年までに80%削減する長期目標が掲げられました。

さらに、2018年に気候変動適応法が制定され、国、地方自治体、事業者及び国民が一体となって気候変動への適応を推進するための枠組みが整備されました。そして、気候変動適応法第7条の規定に基づき、気候変動適応計画（平成30年11月27日閣議決定）が策定されました。

これにより、地球温暖化の要因である温室効果ガスの排出を削減する対策（緩和策）に併せて気候変動の影響による被害の回避・軽減対策（適応策）の両面から地球温暖化対策を推進していくこととなりました。

コラム 日本の「2050年目標」

令和2年10月26日に召集された第203回臨時国会における菅内閣総理大臣所信表明演説の中で、脱炭素社会の実現に向けて「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」との表明がありました。これにより、我が国の地球温暖化対策の加速化が期待されます。



コラム 取手市の動向

【気候非常事態宣言を表明】

令和2年8月3日、本市では茨城県内で初めて「気候非常事態宣言」を表明しました。この宣言は、国や自治体が気候変動が危機的な状態であることを認識し、その要因とされる地球温暖化対策に取り組む決意を表明することで、気候変動に対応した行動を促すものです。



「取手市気候非常事態宣言」を掲げる藤井信吾市長（右）と市環境審議会の氷鮑揚四郎会長（左）

【取手市気候非常事態宣言 4つの方針】

- 1 ・宣言の普及啓発・4R行動の推進、再生可能エネルギーの推進
- 2 ・2050年の二酸化炭素排出量を実質ゼロ
- 3 ・風水害に強いまちづくり
- 4 ・同じ志を持つ方々と手を結び広く連携する

4R とは

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ○Refuse（リフューズ） | 不要なものは買わない・受け取らない |
| ○Reduce（リデュース） | ごみを減らす |
| ○Reuse（リユース） | 繰り返し使う |
| ○Recycle（リサイクル） | 再生して利用する |